

奄美大島屋鈍遺跡発掘調査概報

A Preliminary Report of Excavation at Yadon Site, Amami-oshima, Kagoshima

竹中 正巳¹⁾, 鐘ヶ江賢二²⁾, 大西 智和³⁾, 渡 聡子⁴⁾

Masami Takenaka, Kenji Kanegae, Tomokazu Onishi, Satoko Watari

¹⁾鹿児島女子短期大学, ²⁾鹿児島国際大学ミュージアム, ³⁾鹿児島国際大学国際文化学部, ⁴⁾宇検村教育委員会

本稿は、2016年9月9日から9月14日まで行われた鹿児島県宇検村屋鈍遺跡の発掘調査の概要報告である。4基の中世墓が検出され、いずれも単体埋葬で、副葬品は遺存していなかった。1, 2, 3号墓からは男性熟年人骨が、4号墓からは女性壮年後期人骨が出土した。

Keywords : Yadon site, Amami-oshima, medieval period, human skeletal remains

キーワード : 屋鈍遺跡, 奄美大島, 中世, 古人骨

1. はじめに

鹿児島県大島郡宇検村屋鈍に所在する屋鈍（やどん）遺跡は奄美大島焼内湾の入口南側の砂丘上に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての土器や石器と共に貝や獣魚骨などの食糧残滓が多量に出土する貝塚的な遺跡として知られてきた（鹿児島県立埋蔵文化財センター、2009）。土師器、須恵器、輸入陶器、鉄器、墨書貝製品、貝符、貝符未製品や磨製石鏃等の出土遺物は、九州・沖縄をはじめ東南アジアとの関連を示している。

2016年9月、竹中正巳らは新たに同遺跡の発掘調査を行った。中世に属すと考えられる土坑墓4基から4体の古人骨が出土した。これらは、中世奄美大島の埋葬実態を解明する上で貴重な資料となる。本稿では、土坑墓4基の発掘の概略について報告する。

2. 調査成果

屋鈍遺跡から検出された4基の中世墓を図1に示す。4基の墓の掘りこまれた土層からは、カムイヤキ片や中国青磁片が検出されていることから4基とも中世の土坑墓と考えられる。



図1 屋鈍遺跡の発掘 (2016年9月)

1号墓（図2）

出土した人骨は単体で、埋葬姿勢は南頭位の仰臥屈葬である。顔面は西を向く。踵骨や腓骨、大腿骨の出土位置から、膝を立てて埋葬された可能性が高い。人骨の保存状態はそれほどよくはない。性別は男性、年齢は熟年と判定される。副葬品は遺存していない。



図2 屋鈍遺跡1号墓 人骨出土状況

2号墓（図3）

出土した人骨は単体で、埋葬姿勢は西頭位の仰臥屈葬である。左右の膝関節は強く曲げている。人骨の保存状態はそれほどよくはない。性別は男性、年齢は熟年と判定される。副葬品は遺存していない。



図3 屋鈍遺跡2号墓 人骨出土状況

3号墓 (図4)

出土した人骨は単体で、埋葬姿勢は北頭位の仰臥屈葬である。左右の膝関節は強く曲げている。人骨の保存状態はそれほどよくはない。性別は男性、年齢は熟年と判定される。副葬品は遺存していない。

人骨の計測を行ったところ、頭蓋長幅示数は68.6と極めて長い。顔面の示数は、Kollmann 顔示数：87.5、Kollmann 上顔示数：48.4、眼窩示数（左）：82.5、鼻示数：55.1である（図5）。ピアソン式により右大腿骨最大長から身長を計算すると、158.4cmと推定される。また、特記事項として、右頭頂骨に良性の骨腫が2か所に認められた（図5）。また、右前腕遠位部にコーレス骨折の治癒痕が確認できた（図6）。



図4 屋鈍遺跡3号墓 人骨出土状況

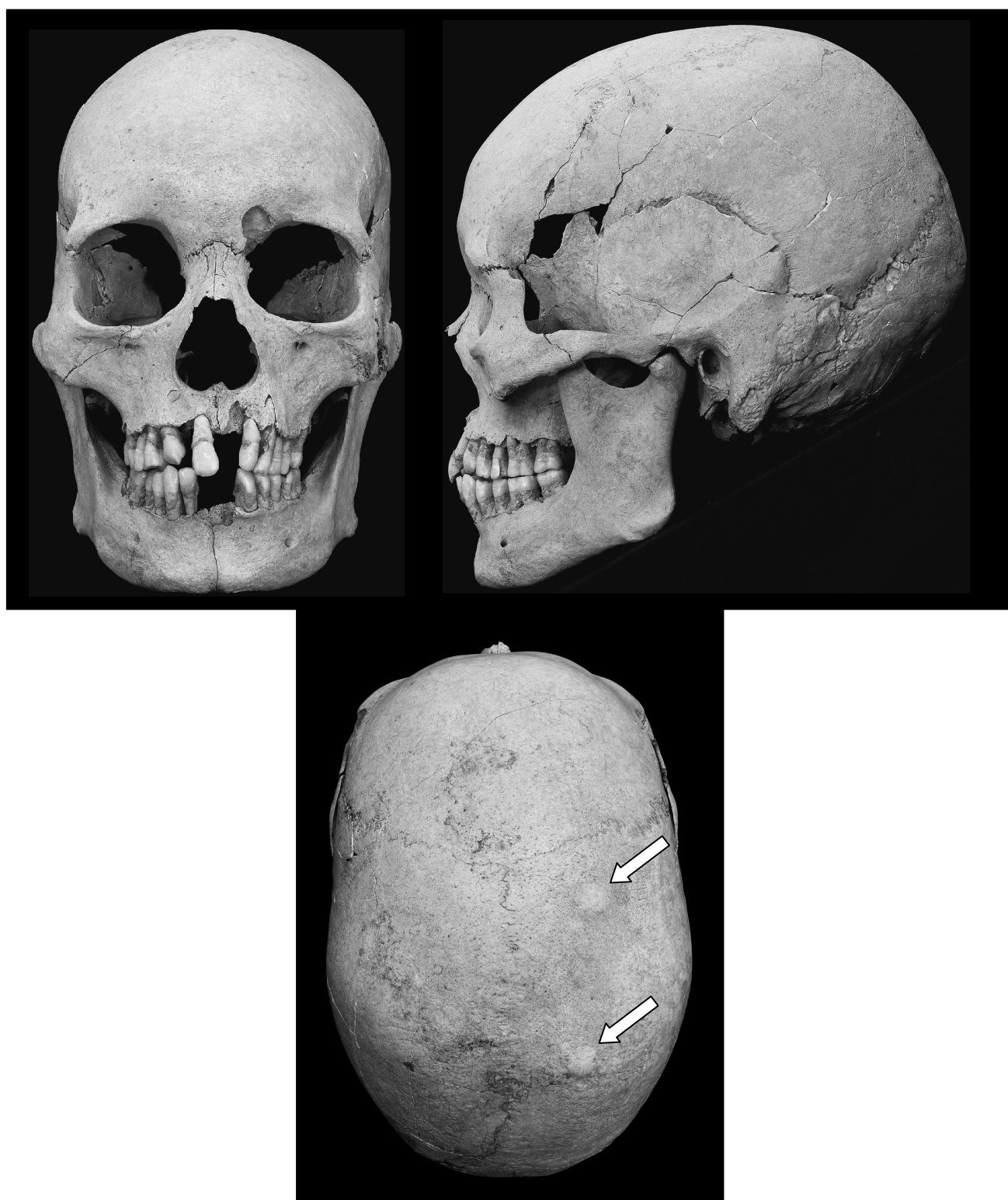


図5 屋鈍遺跡3号墓男性熟年人骨 頭蓋（矢印：骨腫）



図6 屋鈍遺跡3号墓男性熟年人骨 右前腕 (矢印：コーレス骨折)

4号墓（図7）

出土した人骨は単体で、埋葬姿勢は東頭位の仰臥屈葬である。左右の膝関節は強く曲げている。人骨の保存状態はそれほどよくはない。性別は女性、年齢は壮年後期と判定される。副葬品は遺存していない。

人骨の計測を行ったところ、頭蓋長幅示数は76.8と長い。顔面の示数は、Kollmann 顔示数：72.9、Kollmann 上顔示数：44.3、眼窩示数（左）：79.1、鼻示数：54.2である（図8）。ピアソン式により右大腿骨最大長から身長を計算すると、146.2cm と推定される。

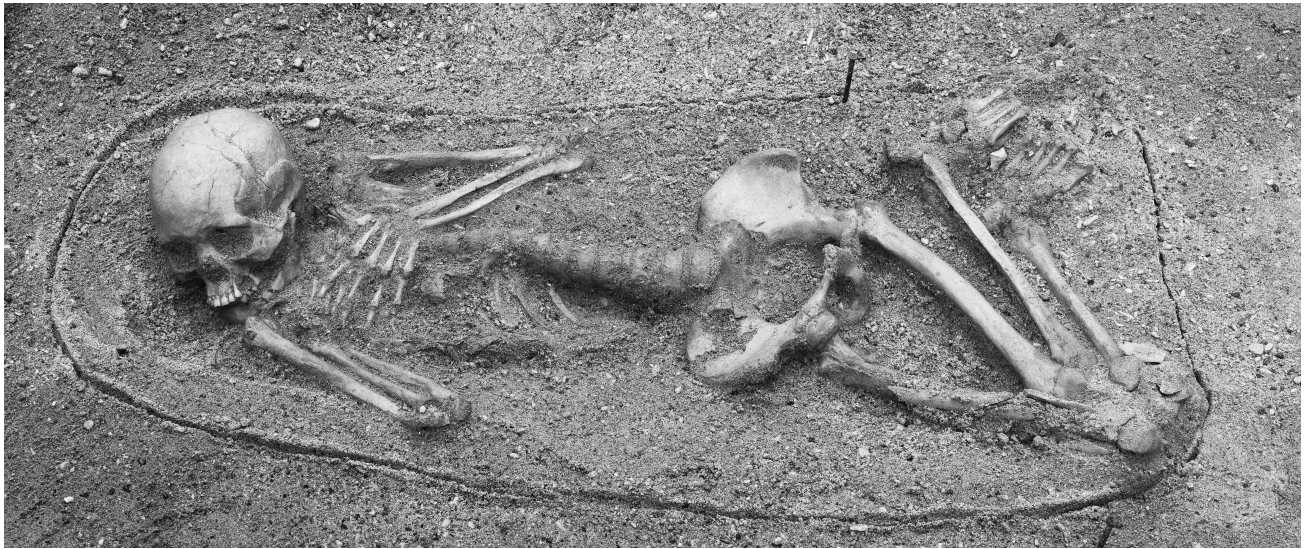


図7 屋鈍遺跡4号墓 人骨出土状況

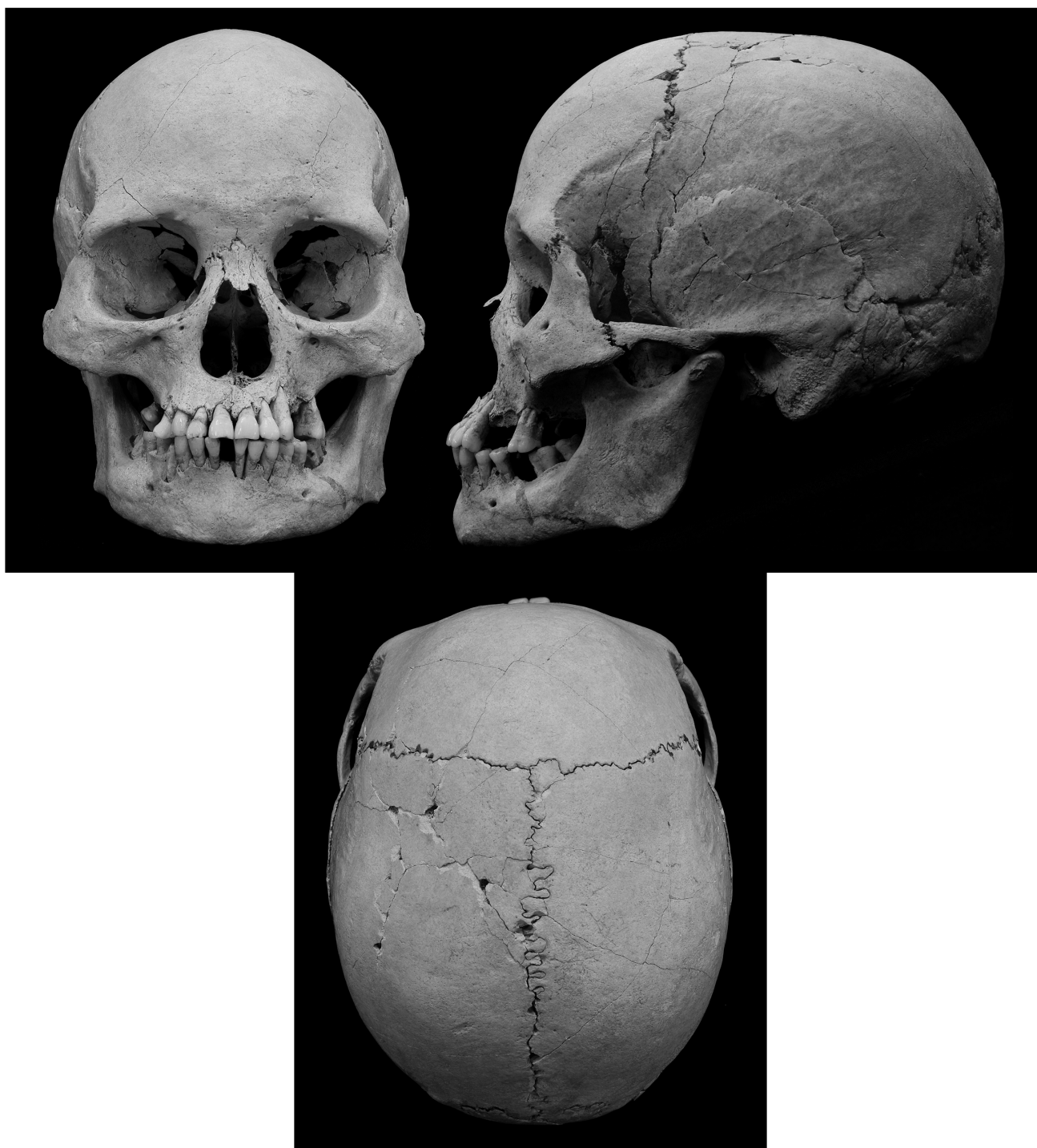


図8 屋鈍遺跡4号墓女性壮年後期人骨 頭蓋

3. おわりに

今回の屋鈍遺跡の中世墓から出土した人骨は、山がちな奄美大島南部の中世人の様相を考える上で貴重な出土例であり、出土人骨からのC14年代測定などを行い、正式報告書を作成したい。奄美諸島では、奄美大島をはじめ喜界島、徳之島から保存良好な中世人骨の出土が続いている。中世の奄美群島の人々の形質・系統や生活や風習、栄養状態、埋葬過程や埋葬儀礼の解明が期待される。

謝辞

発掘調査の際、宇検村屋鈍集落のみなさまには助言や助力を多数たまわった。本発掘調査はJSPS 科研費 JP16K03172 の助成により行われた。

引用文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター（2009）屋鈍遺跡。鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書，第143巻。

（2017年12月1日 受理）